

## 令和元年度 第3回高岡市総合教育会議 会議録

I 日時 令和2年3月25日（水）午後3時～午後4時50分

II 場所 高岡市役所3階 庁議室

III 出席者 高岡市長 高橋 正樹  
高岡市教育委員会  
教育長 米谷 和也  
教育委員 長尾 順子  
教育委員 長谷田 祐一  
教育委員 土田 一清

事務局関係

総務部

総務課長 上森 智美

総務課副課長 木村 文徳

教育委員会事務局

教育次長 杉森 芳昭

教育次長・学校教育課長 高松 毅

教育総務課長 中保 哲憲

生涯学習・文化財課長 大野 洋靖

教育センター所長 松谷 均

教育総務課副課長 島田 輝

生涯学習文化財課係長 野口 広大

教育センター指導主事 高橋ひとみ

IV 傍聴者 なし

## V 協議の概要

### 1 開会

・市長あいさつ

【市長】

令和2年度からスタートする「みらい高岡総合戦略」では、ひとづくりを柱にしたいと考えている。地方創生のためには、まちづくり、ひとづくり、しごとづくりの3つが大事である。本市ではこれまで5年間の計画期間の中でどちらかといえば、まちづくり、しごとづくりが移住定住のベースということで、民間の力も借りながら駅前周辺の都市機能集約や看護学校の設置などを進めてきた。これらにより、高岡駅・新高岡駅周辺に相当程度の集約が図られたものと考えている。これからは、いよいよひとづくりとい

うことで人口減少下にある中で、未来を担う子どもや若い世代が誇りをもって生き生きと生活や仕事をし、まちをつくっていくための総合的な取り組みを進めていかなければならないと考えている。

そうした中で、大きな柱になるのは、子どもたちの義務教育の9年間で有効に活用しながら、たくましく生きていく力を備え、世界に羽ばたく創造性の高い人材を育てていくことかと思う。

一方で、人生100年時代にあって、人生を通じた学びが大変大事であることから、生涯学習についても本会議で取り上げていかなければならない課題だと考えている。

公民館のあり方については、教育将来構想検討会議で議論いただいているが、本日は、その検討状況を報告いただく。また、5年目を迎えた本市教育大綱の改定についても、市長部局と教育委員会とで方向性を見定め、共通の認識のもとに教育のあり方を示していきたいので、忌憚のないご意見をいただきたい。

## 2 協議事項

### (1) 公民館等の社会教育施設・生涯学習施設のこれからのあり方について（経過報告） （教育総務課説明）

#### 【長尾委員】

土曜学習などにより、子ども達が公民館に通いやすい状況になってきている。公民館は、地域のコミュニティには欠かせないものであり、活動の内容充実が重要であると考ええる。

#### 【土田委員】

公民館は地域のコミュニティの役割を果たしているもので、大事にしていくことが前提かと思うが、教育委員会で地元の意見を聞いている学校区毎の懇談会の経験も生かし、地域ぐるみで地域づくりをしていくべきと考える。

公民館の機能について整理したうえで、各公民館の在り方について、自治会に提示していけばいいと思う。

#### 【長谷田委員】

公民館は、コミュニティ施設であるので、地域住民の方々の意見を十分に踏まえて進めていただきたい。

#### 【市長】

公民館は、社会教育施設として様々な活動をしているが、地域の活動拠点として、行政事務的な部分も担っていることもある。課題の1つは、この行政事務と生涯学習機能をどのように考えるかということだと思う。

また、地域コミュニティの観点からは、担い手確保の問題もある。そういう意味では、公民館という物的・人的な資源をどのように有効活用していくかを考えていく必要もある。

る。

今後、学校再編が進んでいくと、該当するエリアについては、1つの小学校・中学校の校区の中に公民館が2つないし3つということも想定される。利用される方は高齢者が多いということもあり、物理的な移動時間やアクセスの仕方を考えたときにどのような公民館のあり方が良いのかという観点も必要である。

#### 【長尾委員】

学童保育は、現在それぞれの学校で行っているが、再編統合により場所が遠くなることも想定されるが、公民館を学童保育に利用することは可能か。

#### 【教育長】

過去には、古府公民館で学童保育が行われていたが、小学校に移った経緯がある。石堤の地元の皆さんからは、来年度も石堤で学童保育を続けたいとの要望を受けており、その方向で準備をしている。学童保育については、地域の皆さんに支えてもらっているので、地区毎に個別の話になると思う。

従来、学童保育の時間については、学校の外という意識があったが、私としては、子ども達は、学校で過ごしているので、同じ学校の敷地内で学童保育を行う放課後対応については、教員は関係ないということではなく、関わるべきところは関わるということが基本だと思っている。一方で過重な負担にならないように配慮する必要もある。

また、子ども達の24時間の育ちを考えたときに、ここまでは教育、ここからは福祉という杓子定規な切り方でなく、円滑になる体制をつくっていきたいと考えている。

#### 【市長】

本日は、経過報告ということだが、今後、教育委員会と市長部局それぞれで公民館の在り方について課題を整理し、すり合わせをしていきたい。

### (2) 高岡市教育大綱（案）について

#### （教育長説明）

#### 【土田委員】

前回から大きく修正され、現在の社会や未来に向けての方向性がはっきりと打ち出されていると思う。学校の部活動との連携による地域スポーツクラブの創出活動推進については、学校の部活動における負担を軽くしようとする意味合いもあるかと思うので、進めていただきたい。

国吉義務教育学校における「ふるさと未来科」については、高岡市全域で進めていっても良いのではないかと思う。

#### 【長谷田委員】

施策が箇条書きになるなど分かりやすく修正された。重点施策を1つ1つ着実に具現化していただきたい。大綱の内容については、小中一貫校やICTの充実など、既に動き出しているものもあり、近いうちに富山県内で上位の学力になればと思う。

#### 【長尾委員】

いかに分かり易く伝えるかということが大事だと思う。とても分かり易くなったと思う。どの市町村にもあてはまる言葉ではなく、また、過去の事案を継続してきたものでもないというのが今回の大綱の特徴かと思う。高岡が今目指しているところが、小中一貫教育に向けた再編統合や1人1台タブレットの導入、高岡型コミュニティスクールなど、目指すものがより具体的に示されているので、大変分かり易く、施策を進めていく熱も感じられるものとなっている。

また、小中一貫教育にかかる記載内容については、人的交流、事業改善、学力向上といった観点からの前向きな訴え方もできるのではないかと思う。また、連携協力にとどまらず、共につくりあげる「協働」というフレーズが欲しい。

また、特別支援にかかる記載に合理的配慮とあるが、少し冷たい印象を感じるので、柔らかい表現にしたら良いのではないか。

#### 【教育長】

小中一貫教育を積極的に実施していくことが我々のスタンスである。人的交流、事業改善、学力向上といった点については、我々の目指すところであり、ご指摘を踏まえ修正したい。

#### 【土田委員】

2ページに記載のある基本方針の5については、夢や希望を育むスポーツの振興と健康を支える誰もが親しめる体育の推進といったように、体育とスポーツを分けて表現した方が分かりやすいのではないか。

#### 【市長】

基本方針に「子どもたちの連続した成長を切れ目なく支援する」という記載があるが、子ども達は日々成長していく中で、学年の切れ目は、ある意味、人為的に作ったものである。これについての教育委員会としての見解は。

#### 【教育委員会事務局】

これまでは、小学校、中学校それぞれの教員は、自分の学校のエリアの子ども達だけを見据えて教育を進めてきた。これを新たに9年間という1つの義務教育の流れの中で子ども達を見ていくということが、切れ目なくという言葉に集約されていると考えている。

#### 【教育長】

子どもの24時間、切れ目のない子ども達の成長については、我々も重要なポイントだ

と考えている。教育委員会、福祉、学校、地域の境目を作るのではなく、連携しながらさらに深めていく中で、連続した育ちを支えていきたい。

また、子ども達には、学年差以上に個人差が大きい場合が多い。どんどん先に行ける子どもでも学年で止めている場合や、逆に、学年は上だが低学年の段階で躓き、中々学習が進まない子もいる。そのため、それぞれの子どもの状況に応じ、9年間の中で関わっている教員が共通の意識を持って卒業するまで育てていくということが大事であると考えている。

**【市長】**

今回の大綱については、Society5.0をはじめとする新しい時代への対応ということかと思う。この点については、具体的にどのような取り組みが進められるのか。

**【教育委員会事務局】**

Society5.0については、リーディングスクールとして国吉義務教育学校におけるプログラミング教育が挙げられる。小中一貫教育を生かし、プログラミング教育に優れた教員やICT支援員を活用し、前期課程の1年生から後期課程の9年生までの9年間で、継続的にプログラミング教育を行うことを目標としている。

国吉義務教育学校で実施した指導のノウハウは、今後、市内の小中学校へ普及させ、今後到来するSociety5.0の社会に向けて準備したいと考えている。

**【市長】**

今後5年間のふるさと教育については、何がテーマになってくるのか。

**【教育長】**

技術が進むほど人間性が大事になるように、グローバル化により国際性が求められるほど、子ども達の根となる地域の歴史・文化・風土の誇りになる部分を磨くことが、個の確立につながっていくと考える。

そのため、子ども達の成長のベースとなるものを地域の方々や保護者、学校、行政が一体となり、しっかり作りあげていくことが大事であると考えている。

**【市長】**

生涯学習については、人生100年時代の学びということが強調されているが、これはどのような切り口なのか。

**【教育長】**

100年時代になると健康寿命が延伸し、使える時間も増えていくことになる。そのため、学校では、生涯にわたって学ぶ姿勢を身に着け社会に出て行ってほしい。また、社会に出た後も新しい知識を得ていただくような仕組みを公民館等を活用しながら提供していきたい。

また、年配の方は元気なので、今まで蓄積してこられたネットワークや知恵・経験を

生かしていただき、地域のグループ活動を将来に渡って継続していただくような生涯学習のまちづくりを進めていきたい。

**【市長】**

若い方に公民館等の活動に参加してもらう取り組みについての考えは。

**【教育委員会事務局】**

土曜学習については、徐々に対象地区を増やしてきており、公民館の利用も増えてきていると思う。そうした中で地域との連携が深まり、より子ども達が公民館に親しみ易くなっていくようなプログラムを推進していきたい。

**【市長】**

歴史文化は高岡市の売りの1つであるが、教育委員会において新年度に考えていることはあるか。

**【教育委員会事務局】**

越中国府関連の事業として、国分寺における仏像の調査の実施や、勝興寺の修復が来年度終えることから音声ガイダンスの導入など様々な事業に取り組んでいきたい。また、吉久については重要伝統的建造物群保存地区の取り組みを進めている。

**【教育長】**

国泰寺は積極的に市民に公開していくということをお願いしている。大きなチャンスと捉えており、太田地区の地域振興にも関わってくる重要なポイントになると考えている。

**【市長】**

私としては、歴史・文化が市民生活から離れたところにあるのではなく、市民生活の中で昇華・融合されていくものであってほしい。

**【市長】**

教育大綱の改定案については、私の思いと同じ方向性が記載されていることを確認してもらった。記載の表現については何点かご指摘もいただいたので、修正させていただきたい。

<国吉義務教育学校 外国語教育について>

(教育委員会事務局説明)

**【長尾委員】**

9年間の中で、子ども1人ひとりにあったきめ細やかな教育ができるのではないと思う。

**【長谷田委員】**

こういった学校があるのなら、自分の子どもを通わせたいという希望が増えるのではないかと思うが受け入れるのか。

**【教育長】**

将来的には受け入れていきたいと考えている。国吉の地域の方もそのような思いでいる。まずは、どのような学校かということを市民の方に発信させていただいた上で、門戸を広げた方がよいと考えている。

以上